

八日市企業景況調査報告書

(令和4年第1回)

令和4年 春夏期 実 績

令和4年 秋冬期 見通し

八日市商工会議所

八日市企業景況調査について

(令和4年春夏期)

1. 調査方法

八日市商工会議所会員企業のうち小規模事業者に郵送方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	92 社	36 社	39%
建 設 業	193 社	47 社	24%
卸 売 業	45 社	20 社	44%
小 売 業	175 社	50 社	28%
サービス業	371 社	76 社	20%
合 計	876 社	229 社	26%

3. 調査期間

調査対象期間は令和4年4月～6月期（令和4年春夏期）とし、調査時点は令和4年7月11日とした。先行きは令和4年7月～12月（令和4年秋冬期）の見通しである。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とは Diffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、4ヵ月前との比較である。「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は、持ち直しの動きが広がりつつあるが今なお水面下

令和4年春夏期の八日市企業景況調査の結果がまとまった。多くの企業様から回答をいただいたので、本調査は八日市地域の景況を表す指標になると考えられる。

調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

令和4年春夏期は、ウクライナ危機の長期化や円安による輸入物価の急騰、半導体不足の影響等、経済を取り巻く環境は厳しさが続いている。また、落ち着きを見せていた新型コロナウイルスも6月下旬から感染者数が増加傾向に転じ、予断を許さない状況下での調査であった。そんな中、全体の業況判断DI（前年同期比）は前回令和3年秋冬期から7ポイント改善し▲19となったが今なお水面下である。また売上は11ポイント、採算は9ポイント改善している。従業員は3ポイント小幅に人手不足感が拡大している。

□業況判断DI（前年同期比）は、全体では持ち直しの動きがみられるが一部に悪化の傾向

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前回令和3年秋冬期から7ポイント改善し▲19となった。売上は11ポイント、採算は9ポイント改善した。業種別では、製造業、建設業が6ポイント改善、さらに小売業が27ポイント、サービス業が12ポイント大幅に改善した。その一方で、卸売業のみ前回の±0から大幅にマイナス幅を拡大し▲40となり、全業種の中では唯一の悪化となった。

□売上DI（前年同期比）は、全体ではマイナス幅を縮小。建設業、小売業で大幅改善

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、全体では11ポイント改善し、▲16となった。特に、建設業では26ポイント、小売業では30ポイント大幅改善した。製造業・サービス業もそれぞれ6ポイント改善したが、卸売業のみ30ポイントの大幅悪化であった。

□採算DI（前年同期比）は、ほとんどの業種で改善。卸売業のみマイナス幅拡大

「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、全体で9ポイント改善し▲24となった。一方、卸売業では前回調査で大幅改善がみられた反動か今回はマイナス40ポイントの大幅な悪化であった。その他の業種はおよそ12～18ポイントの範囲で改善している。

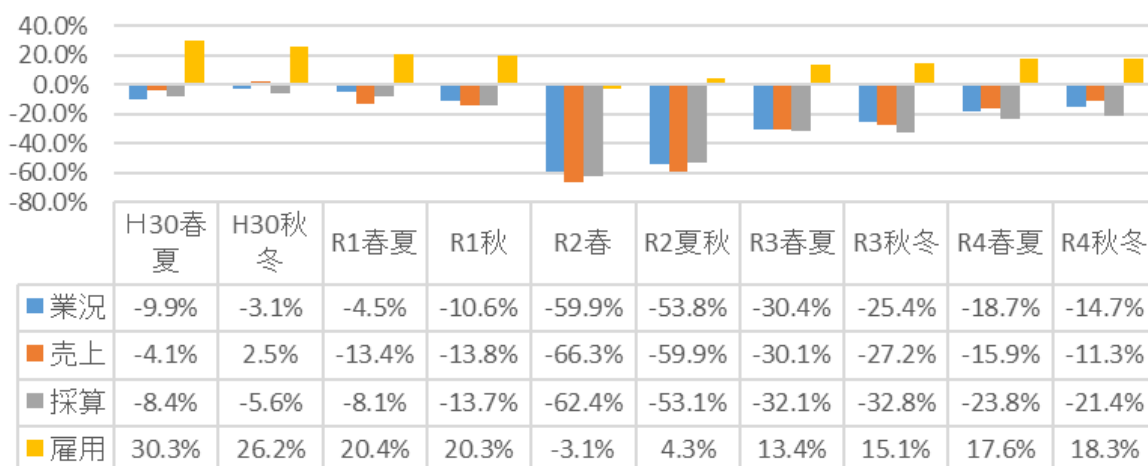
□資金繰りDI（4ヵ月前比）は、全体で横ばい。業種ごとに濃淡がみられる

「4ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、全体では横ばいの▲13であった。製造業が8ポイント、小売業が6ポイントと改善した一方で、建設業2ポイント、卸売業15ポイント、サービス業3ポイント悪化しており、業種によりまだら模様の状況であった。

□従業員DI（前年同期比）は、全体では人手不足感が強まるが製造業では人手不足感解消

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、全体で3ポイント上げて、人手不足感が若干増した。建設業7ポイント、小売業8ポイント、サービス業3ポイントそれぞれ上昇し、人手不足感が強まっている。一方、製造業では22ポイント減少し±0と人手不足感が解消した。

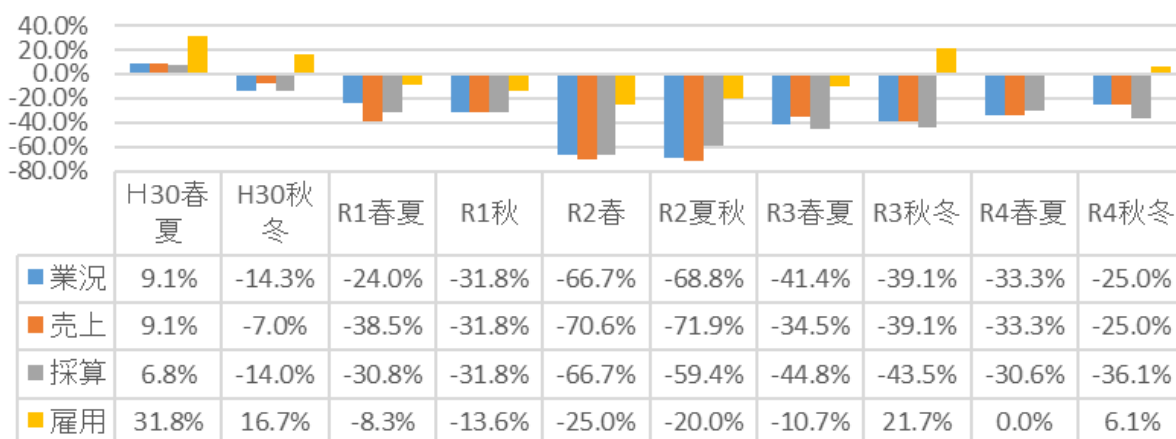
主要4項目DI指数推移(全体)



製造業

DI指数をみると前回令和3年秋冬期と比較して「業況」は6ポイント上昇して▲33となり、マイナス幅は縮小しているが低水準である。個別指標をみると、「売上」は6ポイント上昇して▲33、「採算」は13ポイント大幅に改善して▲31となった。一方では、「従業員」が22ポイント減少しDI指数が±0となり人手不足感が解消した。今回は「従業員」がマイナスからプラスに転じたが、景気の先行き不透明感を反映し人手不足には一服感がある。来期の「業況」「売上」は8ポイントの改善を見通しており、その影響で「従業員」も6ポイント上昇し人手不足は来期再び強まると見込んでいる。前向きな生産活動の意欲に対して、急激な円安や物価の上昇、コロナ禍の動向等がネックとならないことが望まれる。

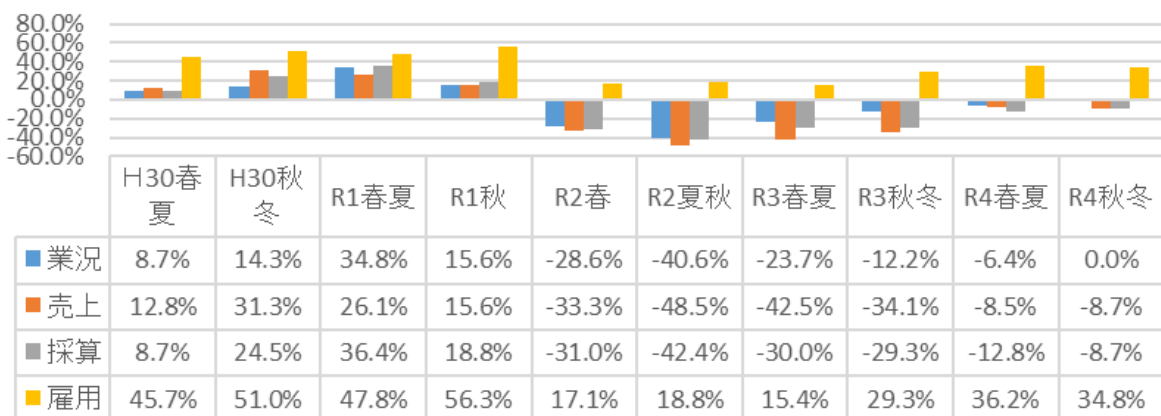
主要4項目DI指数推移(製造業)



建設業

DI指数をみると、「業況」は6ポイント上昇し▲6と改善の傾向がみられた。「売上」は26ポイント上昇し▲9、「採算」も17ポイント上昇で▲13と、大幅に改善の方向に向かっている。その他の指標でも概ね上向き傾向となっており、建設業界の回復傾向は顕著になってきている。その影響で「従業員」は7ポイント上昇して36と人手不足感は強まっており、人手の確保が厳しさを増していることが伺える。建設資材の高騰や半導体不足による設備機器納期の遅延等が業況好転に水を差さないことが望まれる。

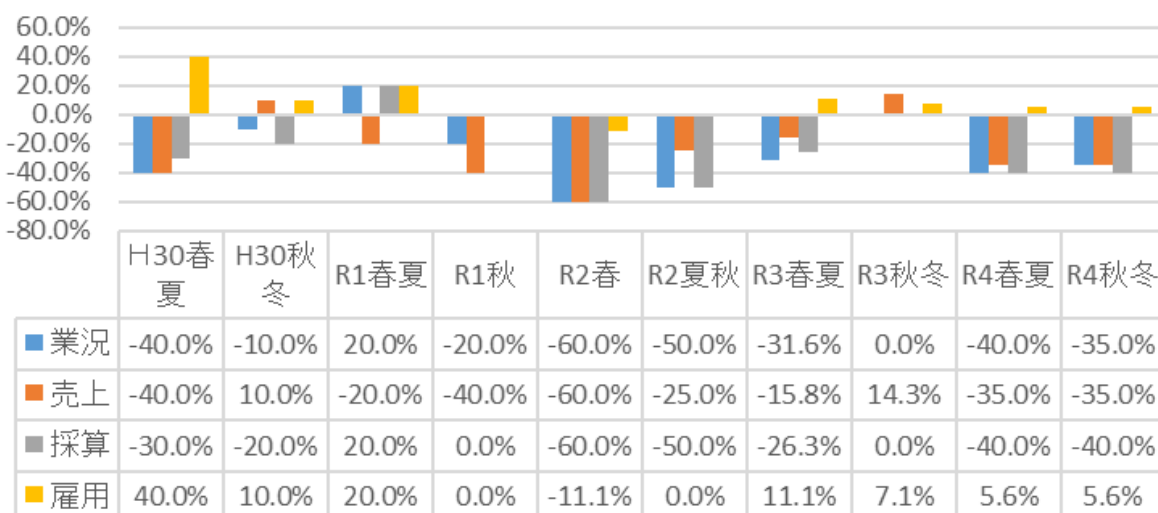
主要4項目DI指数推移(建設業)



卸売業

DI 指数をみると、「業況」は、40 ポイント大幅に悪化し▲40 となった。前回±0 まで改善したが今回は一転して大幅マイナスとなった。個別指標も、「売上」は 49 ポイント大幅に低下して▲35、「採算」も 40 ポイント悪化し▲40 と、その他の指標も含めて景況感は厳しさを増している。「従業員」は 2 ポイント低下し人手不足感は若干緩和されている。ウクライナ危機に端を発した食品価格や燃料価格等の高騰によるサプライチェーンの混乱等が経営者のマインドに暗い影を落としている。

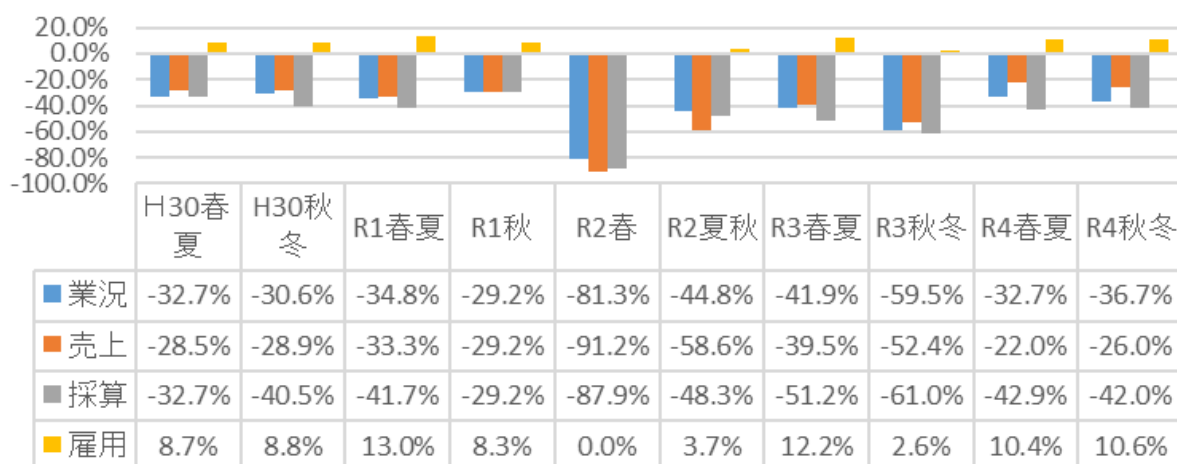
主要4項目DI指数推移(卸売業)



小売業

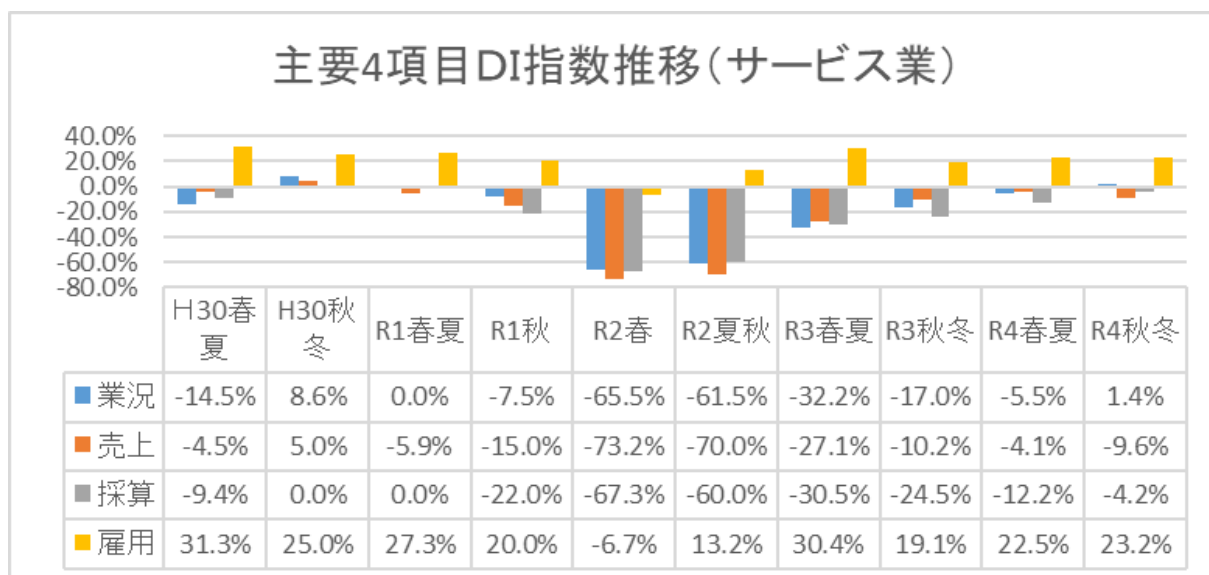
DI 指数をみると、「業況」は 27 ポイント上昇して▲33 となったが低水準である。「売上」も 30 ポイント上昇し▲22、「採算」も 18 ポイント上昇して▲43 と主要 3 指標で改善しているがこれらも低水準。「従業員」は 8 ポイント上昇し人手不足感がやや強まっている。前回は他の業種に比べて悪化の幅が大きかったが、調査時点では新型コロナへの対応が落ち着いてきていることからやや前向きなマインドへの変化がみてとれる。

主要4項目DI指数推移(小売業)



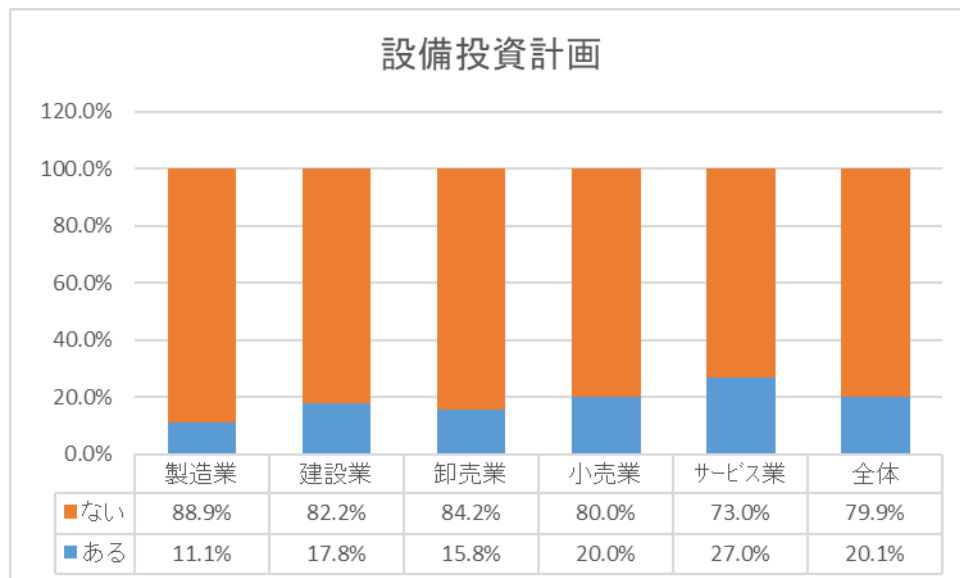
サービス業

DI 指数をみると、「業況」は12ポイント改善し▲6となった。「売上」は6ポイント改善し▲4、「採算」は12ポイント改善し▲12と、前回に引き続いて景況感が改善された。その一方で、「従業員」は3ポイント上昇しており、人手不足感が強まっている。調査時点では、新型コロナウイルス感染拡大がひと息つき、外食や旅行、交通、娯楽等の対人接触型サービス消費に回復の動きが見られることを反映しているが、今後の感染拡大の動きには注視する必要がある。

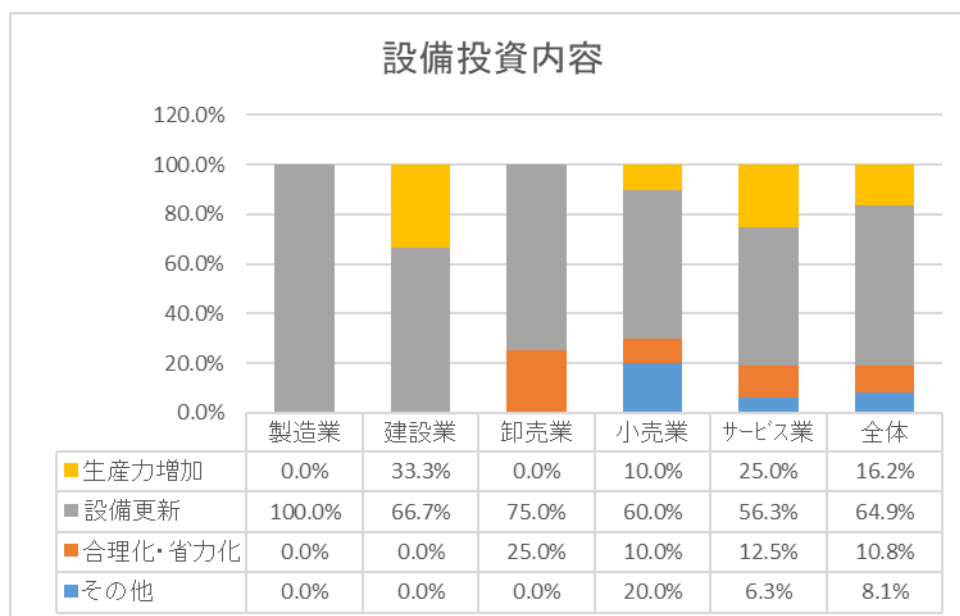


先行き令和4年秋冬期の業況判断DIは、令和4年春夏期から4ポイント改善し▲15と見込んでいる。個別指標をみると、「売上」は5ポイント改善し▲11、「採算」は3ポイント改善し▲21とみている。一方「従業員」は1ポイントの上昇であり、人手不足感はほぼ横ばいであることから、景気の改善は弱含みの動きとなっている。ウクライナ危機の長期化や円安による輸入物価の高騰が続けば、企業マインドが慎重になることが懸念される。

令和4年春夏期の設備投資については、「投資計画がある」と回答した企業の割合は、全体では前回調査より3ポイント上昇し20%であった。業種別にみると、設備投資計画が上向いているのは、増加順に建設業（前回より6ポイント増加）、サービス業（同5ポイント増加）と卸売業（同2ポイント増加）であったが、小売業は横ばい、製造業は2ポイントの減少であった。製造業は一年前の令和3年春夏期（21%）から2回連続で減少しており、依然として設備投資には慎重な姿勢である。



計画内容を見ると、全体では「設備更新」が21ポイント上昇し6割以上を占めた。「合理化・省力化」はほぼ横ばいであったが、「生産力増加」は6ポイント低下し16%となった。経営者マインドがかなり慎重になっていると考えられる。「生産力増加」は、業種別では製造業、卸売業は0%であり取り巻く環境の厳しさを物語っているが、建設業は33%、サービス業は25%あり、業種により先行きの業況見通しによる投資判断に明暗が分かれている。



計画実行	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全体
計画どおり行う	33.3%	50.0%	50.0%	45.5%	35.3%	42.9%
景気動向により見直す	66.7%	50.0%	50.0%	54.5%	64.7%	57.1%
見直す	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

今回のスポット質問として、インボイス制度について尋ねた。

【質問】

3-1 インボイス制度導入は 2023 年 10 月～制度の内容はご存知ですか？

(1)知っている (2)知らない → セミナー等あれば参加したいですか？

3-2 インボイス制度の登録受付が昨年 10 月から始まっています。

インボイス発行事業者になる予定がある、もしくは申請手続きを行われましたか。

(1)すでに申請手続きを行った (2) インボイス発行事業者になる予定である
(3) インボイス発行事業者になる予定はない (4) どちらにするか検討中である

【回答】

	インボイス制度	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全体
認知度	知っている	66%	63%	74%	70%	65%	67%
	知らない	34%	37%	26%	30%	35%	33%
登録申請	①申請済	17%	10%	33%	19%	5%	14%
	②申請予定	45%	40%	39%	35%	32%	37%
	③申請しない	21%	15%	17%	19%	31%	22%
	④検討中	17%	35%	11%	28%	32%	28%
セミナー参加希望数		3	10	2	12	12	39

インボイス制度の認知度は約7割に及ぶが、逆に知らない事業者もまだ3割強残っている。また、登録申請をするかしないかを検討中の事業者も約3割を数える。インボイス制度は、どの業種もある程度の影響は受けるものの、業種や取引先の方針によって、事業者が影響を受ける程度には強弱がある。国税庁のホームページやインボイス制度関連セミナー等で情報を入手し、対応方針を決めておくことが望まれる。

八日市商工会議所では、セミナーの開催や随時相談も受け付けており、詳しく内容を確認することをお勧めしたい。

井上サーバントコンサルティング
中小企業診断士・技術士（応用理学）
井上 稔

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算	
	R4 春夏期 動 向	R4 秋冬期 見 通 し	R4 春夏期 動 向	R4 秋冬期 見 通 し	R4 春夏期 動 向	R4 秋冬期 見 通 し
全 体	▲18.7	▲14.7	▲15.9	▲11.3	▲23.8	▲21.4
製 造 業	▲33.3	▲25.0	▲33.3	▲25.0	▲30.6	▲36.1
建 設 業	▲6.4	0.0	▲8.5	▲8.7	▲12.8	▲8.7
卸 売 業	▲40.0	▲35.0	▲35.0	▲35.0	▲40.0	▲40.0
小 売 業	▲32.7	▲36.7	▲22.0	▲26.0	▲42.9	▲42.0
サービス業	▲5.5	1.4	▲4.1	▲9.6	▲12.2	▲4.2

	採算（経常利益）の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	R4 春夏期 動 向	R4 秋冬期 見 通 し	R4 春夏期 動 向	R4 秋冬期 見 通 し	R4 春夏期 動 向	R4 秋冬期 見 通 し
全 体	▲5.2	▲4.0	▲24.1	▲23.5	17.6	18.3
製 造 業	▲11.1	▲5.6	▲38.9	▲36.1	0.0	6.1
建 設 業	14.9	8.9	0.0	▲8.7	36.2	34.8
卸 売 業	▲26.3	▲27.8	▲50.0	▲42.1	5.6	5.6
小 売 業	▲20.0	▲20.4	▲46.0	▲42.0	10.4	10.6
サービス業	▲2.7	2.8	▲12.9	▲11.4	22.5	23.2

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	R4 春夏期 動向	R4 秋冬期 見通し	R4 春夏期 動向	R4 秋冬期 見通し	R4 春夏期 動向	R4 秋冬期 見通し
全 体	▲13.1	▲16.1	▲7.3	▲10.7	▲4.7	▲7.5
製 造 業	▲22.2	▲22.2	▲9.4	▲9.4	▲3.2	▲6.5
建 設 業	▲6.4	▲8.7	10.9	2.2	10.9	4.4
卸 売 業	▲15.0	▲26.3	▲10.0	▲10.0	▲5.0	▲5.0
小 売 業	▲20.4	▲22.4	▲10.9	▲17.4	▲6.5	▲8.7
サービス業	▲9.7	▲13.0	▲17.4	▲18.2	▲16.4	▲18.5

八日市商工会議所

〒527-0021

滋賀県東近江市八日市東浜町1-5

TEL : 0748-22-0186

FAX : 0748-22-0188

URL <http://www.odakocci.jp>